

26 章 総合問題 26

問題

【1】

解答

ア c イ g ウ h エ e オ a カ d

解説

STEP 1

まず、下記の対応関係に注目。

① manmade objects [第1段落 (ℓ. 3)]

② man-made objects [選択肢 c]

次に、下記の対応関係にも注目。

③ space is filled with ～ [選択肢 c]

④ Earth is surrounded by a layer of ～ and countless bits of … [第1段落 (ℓ. 4)]

さらに、下記の対応関係にも注目。

⑤ flying trash [選択肢 c]

⑥ dead satellites, spent rocket boosters, bolts, nuts, buckets of garbage and human waste ～ paint and particles of … [第1段落 (ℓ. 4)]

以上より、アに入るのは c であることがわかる。

STEP 2

下記の対応関係に注目。

① Science writers [選択肢 g]

② they [第3段落 (ℓ. 15)]

次に、下記の対応関係にも注目。

③ the 1950s / described / the dangers / would / future [選択肢 g]

④ the danger / now / predicted [第3段落 (ℓ. 15)]

以上より、イに入るのは g であることがわかる。

STEP 3

下記の対応関係に注目。

① Space traffic will increase [第4段落 (ℓ. 24)]

② ～ will increase along with it [選択肢 h]

次に、下記の対応関係にも注目。

③ satellites [第4段落 (ℓ. 24)]

④ satellites [選択肢 h]

以上より、ウに入るのは h であることがわかる。

STEP 4

下記の対応関係に注目。

- ① can't monitor [選択肢 e]
 - ② too ~ to be picked up by radar [第9段落 (ℓ. 56)]
- 以上より、**工**に入るのは **e** であることがわかる。

STEP 5

下記の対応関係に注目。

- ① shield the vehicle [第9段落 (ℓ. 59)]
 - ② spacecraft-protection [選択肢 a]
- さらに、下記の展開 (= 論旨の流れ) にも注目。
- ③ protect ~ shuttle's ... [第8段落 (ℓ. 54)]
 - ④ shield the vehicle [第9段落 (ℓ. 59)]
 - ⑤ So another part of the spacecraft-protection [選択肢 a]

つまり、第8段落の最後で、「宇宙船やシャトルを危険な小片から保護すること」が話題となり、次いで第9段落によって「レーダーでも感知できないくらい微小な破片もあること」が挿入的に言及された後に、第10段落の冒頭では、「したがって」という結論呈示語に先導されて、「宇宙船やシャトルを危険な小片から保護するための別の施策」が述べられる、という展開になっているわけである。

次に、下記の対応関係にも注目。

- ⑥ protective armor [選択肢 a]
- ⑦ carbon steel [第10段落 (ℓ. 64)]

つまり、「防御装甲」に使われるのは、「炭素鋼」なのである。言い換えれば、「鉄 (iron)」では、剛性が低くて比較的容易に射抜かれてしまい、「装甲」として機能しないのである。以上より、**才**に入るのは **a** であることがわかる。

STEP 6

残った選択肢は **b**, **d**, **f** の3つ。

まず **b** は、「ゴシック・ホラー (Gothic horror)」「狼男 (werewolf)」「吸血鬼 (vampire)」等に関する記述なので論外。

f は、「宇宙船の残骸が地球上のどこに落ちて来るか」という内容であるから、本文中との関連性が見出せない。

最後に **d** について見てみると、その要旨は、「抜本的解決策が見つかるまでは、宇宙のゴミ問題と取り組み続けねばならない」ということであるが、本文全体を通じて「抜本的な解決策は示されていない」ままである。したがって、**d** の内容は、最後の締めくくりの言葉としてふさわしいものと考えられる。

以上より、**力**に入るのは **d** であることがわかる。

全訳

地球という惑星を囲んでいる宇宙は、あなたが思っているほど何もないわけではない。地球の近くを通り、時には地球に降って来る自然の流星体群に加え、通信衛星や新しくは国際宇宙ステーションを含めて人工の物体も数が増え続けている。**c** だが、地球の軌道を回っている数多くの人工の物体のうち、道具として機能しているのは、ほんの数パーセントに過ぎない。過去 40 年間の宇宙計画のお陰で、宇宙はゴミ —— 飛んでいるゴミで一杯なのだ。

地球は、役目を終えた衛星、使用済みのロケット・ブースター、ボルト、ナット、大量の生ゴミと人間の排泄物、それに無数のペンキ片およびロケット・ブースターの固形燃料の微粒子といった層に囲まれている。ペンキのかけらなど危険ではないように聞こえるかもしれないが、時速 17,000 マイルで移動しているとすれば、よけた方がいいというものなのだ。

宇宙のゴミ、すなわち「軌道上デブリ」は、主にロケット本体や衛星の上部を爆発させたことによる破片で成っている。BB ガンの銃弾ほどの大きさの何百万もの物体が、平均時速約 22,000 マイルのスピードでお互いを通過しながら、地球の軌道を回っていると考えられている。軌道上デブリのかけらは長い間軌道に留まるため、こういった物体同士が高速で衝突することにより、結局は地球軌道に一層多くの破片が生まれることになり、有人宇宙飛行を危険に晒すことにもなる。軌道上デブリは、宇宙で行うことが増えるにつれ、一層の注意を要する国際問題となっている。

g 1950 年代の科学作家たちは、隕石が将来の宇宙旅行者に及ぼす危険について書き記した。だが、現在その危険は彼らが予想したよりも高まっている。地球は現在、その周りをあらゆる方向に飛び交う宇宙のゴミという天体の砲弾に囲まれているからだ。レーダーでしっかり探知できる大きな宇宙船でさえ、ついには不意に遭遇することもあり、そういった出来事はまれであるとはいえ、大いに不安を抱かせることではある。ロシアの宇宙ステーション「ミール」に乗っていた 14 カ月の間に、アメリカ人宇宙飛行士マイク・フォールは物体接近の警告を数回受けている。ある時には、役目を終えたアメリカの衛星が、彼らのステーションの 1 マイル未満の所を通過した。フォールとロシア人宇宙飛行士たちは、宇宙ステーションが危機的に破損した場合に、自分たちを地球に送り返すことのできる脱出船ソユーズの搭乗指示を受けていた。

携帯電話やインターネット、それに他の通信手段の通信路を供給するために衛星の数が増大するに連れ、今後 10 年のうちに宇宙での行き来は増加するであろう。**h** 飛び交っている宇宙のクズやゴミもそれに伴って増加するであろう。1 つには、衛星を軌道に乗せるブースター・ロケットの使用済みの物から、だがまた、偶然の爆発からも。1996 年、ペガサス・ロケットが爆発し、直径 4 インチ以上の大きさの少なくとも 700 個の破片が軌道上に散乱した。

科学者たちは、こういった軌道上デブリの量を管理し、制限し、そして願わくは減少させるのに有効と考えられる選択肢に取り組んでいる。スペース・シャトルや衛星の安全を確保しようと、NASA 及びアメリカ国防省は、宇宙ステーションから直径数インチの物体に至るまでのすべてを常時監視し続けるために協同している。

軌道上を回っている物体を監視するというのは、空中に短時間滞在し、航空管制官からの警告や命令に反応できる航空交通の監視とはまったく異なる。危険を孕んだ 10 万個以上もの物体のうち、1,000 未満は動かすことのできる衛星である。残りには、推進制御の効かない現役の衛星や役目を終えた衛星、及び大部分は他のもっと小さなゴミが含まれている。

こういった物体を監視するために、NASA と国防省は、天文学の他の分野では見かけられない珍しい装置を使っている。ノース・ダコタには、北の空に向けて 6,144 本ものアンテナから成るレーダー装置があり、2,000 マイル向こうのバスケット・ボールをも探知できる。ジョージアから南カリフォルニアに至るまで、アメリカ南部を横切るように、地球上空数千

マイルにも広がる、目に見えないエネルギーの壁「ラジオ・フェンス」が張り巡らされている。衛星や宇宙のゴミのかげらなどの物体がそれを横切ると、その都度それが記録される。ニュー・メキシコにある NASA の軌道上デブリ観測所では、精巧な機器が低空軌道の小物体を監視している。通常のアルミニウム蒸着ガラスの代わりに、この望遠鏡の鏡面は、500 ポンドの水銀を湛えた 10 本脚の皿から成っている。その皿は空気を緩衝材としてゆっくりと回り、液体の水銀は実に的確な曲面を作り出し極めて繊細な望遠鏡鏡面となる。それは、低空軌道上にある 1～2 センチメートルもの小ささの物体を感知することができる。

スペース・シャトルは、飛行を終える度に念入りに検査され、宇宙で受けた衝撃の原因と結果が分析される。大半の衝突は人工の物体と起こる。1 回の任務だけで、スペースシャトルのコロンビア号は大きな衝突を 100 回以上も受けた。シャトルの機体そのものが、NASA の軌道上デブリ計画に貴重な情報を提供している。1995 年の任務では、スペースシャトル・オービターのコロンビア号は、NASA がそれ以前のシャトル飛行に基づき事前に危険を予測していなかったら、任務を終了させかねなかった衝突を受けた。シャトルの大事な冷却装置が取り付けられている箇所を保護するべくスペースシャトル・オービターを回転させるよう提言していたのだ。

e しかしながら、軍部や NASA でさえ監視できないような小片もある。通称「銀の弾丸」は、いかなるレーダーによっても感知されえないほど小さいが、深刻な打撃を与えうる大きさだ。「運の悪い日には、そういう銀の弾丸の 1 つに衝突される可能性がある。」と NASA のある技師〔エンジニア〕は言う。「そういう日には、船体を保護するためにできる最善の限りを尽くしたいと思うだろう。」

a そこで、宇宙船を保護する努力の一環として他には、建造に向けては防御用装甲板を設計することである。ニュー・メキシコにあるホワイト・サンズ超高速衝撃試験場で、さまざまな材質が試験されている。ここでは、研究者たちは、強力な狩猟用ライフルの 11 倍もの速さである時速 22,000 マイルものスピードで金属やプラスチックの小片を発射するスーパー・ガンを使っている。このスピードだと、1 オンスのプラスチックの小片が、厚さ 1 インチの炭素鋼の板に野球のボール大の穴を開けることになる。

宇宙船を保護するのも不可欠だが、予防はもっと重要である。通信衛星を新たに軌道に乗せようとする会社は、衛星の活動の終わるに当たり、あまり混雑していない、より高度の高いところに衛星を移動させるか、大気内で燃え尽きるよう地球に向けて降下させるかのいずれかのために、衛星内に十分な燃料を残しておくことを今では約束するようになっている。

d しかしながら、事態を一掃する方法が見つかるまで、今後宇宙に行き来する人は、宇宙を飛び交う過去の掃き溜めに対処していかなければならないであろう。

注

本文

ℓ. 1 ◇ Besides the natural clouds of meteoroids

○ besides : ① in addition to 《前置詞》 ② in addition 《副詞》

○ a cloud of ～ = a mass of ～ 「～の大群」

ℓ. 2 ◇ pass close to and sometimes fall to the earth

○ the earth は、pass close to と fall to の両者共通の目的語。

○ fall to the earth の to は「そこまで到達する」ことを表す。

選択肢 c

◇ Thanks to the space programs

○ 日本語の「…のお陰で」と同様、英語の thank to …にも皮肉を込めた用法もある。ここはそれ。

cf. *Thanks to you*, the plan was spoiled.

(君のお陰で、計画は台無しになったよ。)

本文

ℓ. 5 ◇ human waste

○ waste には《動詞》として「浪費する」の意があるが、この waste は《名詞》で「排泄物 (= excretions)」の意。

ℓ. 8 ◇ Space trash, or “orbital debris”

○ or: ① 「A あるいは (もしくは) B」《選択》 ② 「A すなわち (つまり) A'」《換言》

ℓ. 9 ◇ objects the size of a B-B gun pellet

○ … the size of ~ 「～の大きさの…」

cf. … the *weight* of ~ (～の重さの…)

… the *height* of ~ (～の高さの…)

… the *length* of ~ (～の長さの…)

… the *width* of ~ (～の幅の…)

… the *depth* of ~ (～の深さの…)

… the *color* of ~ (～の色の…)

… the *shape* of ~ (～の形の…)

ℓ. 12 ◇ even more debris

○ この even は《比較級の強調》

○ 《比較級の強調》の副詞としては、他に far; much; still; yet がある。

ℓ. 14 ◇ as space operations increase

○ この as は‘比例’の as で、「S が V するにつれて」の意味。下記の 2 つの特徴のどちらか一方でも備えている場合は、‘比例’の as と考えられる。

① as 節内に《比較級》がある。

② as 節内に《変化を表す動詞》がある。cf. increase ; decrease: become

選択肢 g

◇ pose = cause [present] 「引き起こす [呈示する]」

本文

ℓ. 16 ◇ spherical : ① 「球体の」[< sphere 「球体」] ② 「天体の」(= celestial)

◇ shell : この場合は、比喩的に「砲弾」の意。

cf. *shell* (～を砲撃する)

◇ in all directions

○ direction : ① 「指示 (≡ instruction)」 ② 「方向, 方角」: 伴う前置詞は to ではなく in。

ℓ. 17 ◇ cross paths 「不意に遭遇する」

ℓ. 21 ◇ cosmonaut 「(旧ソ連の) 宇宙飛行士」

○アメリカの「宇宙飛行士」を表す astronaut と区別して, cosmonaut と呼ばれる。

ℓ. 22 ◇ in the event that S + V = in case S + V

ℓ. 24 ◇ as satellites multiply

○この as も ‘比例’ の as。

選択肢 **h**

◇ along with it

○ along [together] with ～は, 「～と共に」という意味。with だけでも同じ意味が表せるが, with にはさまざまな意味があるわけで, それを along や together と共に使うことにより, 意味を明確に特定できるという点に, この表現の意義がある。

本文

ℓ. 29 ◇ from space stations to objects

○この from A to B 「A から B まで」は, 文字通りに ‘場所’ ではなく, 比喩的に ‘範囲’ を表す用法。

cf. ranging from A to B

◇ objects a few inches across 「直径数インチの物体」

○〈… 長さ across〉「直径～の…」

ℓ. 30 ◇ in an effort to ensure

○ in an effort to … = trying to …

ℓ. 33 ◇ Among ～ objects

○ among ～ = of ～ 「～の内 (で)」 ← ‘部分’ の of

ℓ. 46 ◇ objects ～ as small as one or two centimeters

○ as ～ as … : ① 額面通りの比較で 「…ほど～」 の意。 ② ‘驚き’ を表し 「…もの～」 の意。

○ここでは後者で, 「(わずか) 1～2センチもの小ささの物体」 の意味。

ℓ. 52 ◇ a hit that could have ended ～ had NASA not predicted …

○関係節の that 節内では, 仮定法過去完了が用いられている。ただし, 後半は if の代わりに倒置が用いられている点に注意。すなわち, had NASA not predicted ～ = if NASA had not predicted ～

ℓ. 54 ◇ suggested rotating

○ suggest ～ *ing* ≡ propose ～ *ing*

ℓ. 57 ◇ do serious damage

○日本語では 「(…に) ダメージを与える」と言うが, 英語では do [cause] damage to ～ と言い, give damage to ～ とは言わない。

ℓ. 68 ◇ down toward the earth

○「地球に向かって」という意味だが, 前置詞が toward であるので, 到達することまでは含意しない。

① to : そこまで到達することを含意する。

② toward : そこに向かっていただけで、到達することまでは含意しない。

選択肢 d

◇ clean it up

○ この it は、ある名詞を指しているわけではなく、漠然と事態全般を指す‘状況’の it という用法。

【2】

解答

「全訳」の下線部①、②参照。

全訳

平均的な芝居の常連の頭の中には、悲劇に対する偏見がある。

「芝居を観に行きたいと思う時には、何か楽しいものが見たいんだ。①苦悩やら悲劇やらは、舞台の上で見せてもらわなくたって普段の生活の中に十分あるからね。」仮にその人が長年使われてきた決まり文句を使わないとしても、悲劇のことを「暗い」だの「気が滅入る」だのと不平を言うであろう。②確かに、中にはそのような劇もあるが、そのような劇は悲劇的たり得ていないのである。

注

- ℓ. 1 ◇ There is (in the mind of the average theatre-goer) a prejudice against tragedy.
○ mind の基本的な意味は頭の中の「考える箱」。
○ average = usual or ordinary
○ theatre-goer 「劇場の常連」
○ goer = a person who regularly attends a particular place or event
○ a prejudice against ~ 「～に対する偏見」
○ tragedy = ① an event causing great sadness or suffering (ℓ. 3 行目の tragedy)
② a serious play with an unhappy ending (ℓ. 1 の tragedy) ⇔ comedy
- ℓ. 2 ◇ cheerful = noticeably happy and optimistic
- ℓ. 3 ◇ pain = a strongly unpleasant feeling caused by illness or injury
◇ (even) without showing it to us on the stage
○ it = (pain or) tragedy
○ stage = ① a point, period, or step in a process (段階) ② a raised floor or platform on which actors, entertainers, or speakers perform (舞台)
◇ (even) if he does not use this well-tried formula
○ well-tried = often tested with good result 「多くの試練に耐えてきた；十分に吟味された」ここでは「長年使われて生き残った」くらいの意味で使われている。
○ formula = a fixed form of words used in particular situations 「決まり文句；形式的文言；慣用表現」
- ℓ. 4 ◇ complain of [about] A that … 「A について…だと不平不満を述べる」
◇ depressing 「憂鬱な；気が滅入る」 < depress = make sad or gloomy

ℓ. 5 ◇ So some plays are ~

C S V

○ 文頭の So は「だから」という意味ではなく、morbid と depressing を受けた補語である点に注意。

◇ ~ without doubt; but ... 「なるほど〔確かに〕 ~だが, ...」

○ without doubt (文修飾副詞) = undoubtedly; certainly

◇ fail to ... 「...しない〔できない〕」

【3】

解答

(1) **b** (2) **d** (3) **c** **d** **e** **a** **f** **b**

(4) 「全訳」の下線部参照。 (5) **c**

解説

(1) be concerned with ~には「~に関するものである〔関心がある；関係がある〕」などの意味がある。下線部を含む文は「ワシントンと彼の政府は国家の樹立と連邦の維持という難題に ()。という意味で、前文の The President's focus ... was on the very concept of union itself. を具体的に述べている。したがって、最もふさわしいのは **b** の「~に関心があった」だと判断できる。なお、Washington and his administration は「ワシントンと彼の政府」が直訳だが、まとめて「ワシントン政権」と捉えるのが適当。

(2) 下線部を直訳すると「アメリカの民主主義の試みはその初期にあった。」となる。in one's infancy は「初期の；揺籃期の」の意味。

Ex. Agricultural research is still *in its infancy* in parts of the Third World.

(第三世界における農業調査はまだ始まったばかりの段階だ。)

a は「民主党による」が誤り。「民主党 (= Democratic Party)」は Democracy とも称されるが、通例これは大文字で始まり、歴史的にもアメリカの民主党の成立は 19 世紀である。それを知らなくても、文脈上ここに民主党が出てくるのは唐突である。また、ここでの experiment は「実験」というよりも「試み」の意で用いられている。

b は「アメリカ国民」が誤り。democracy に「国民」の意味はない。**c** は「実験精神」が不適切。experiment にそのような意味合いはない。よって、**d** が正解。

(3) **c** 空所を含む文は「ワシントンは教書に記す発信地を首都のニューヨークとはせず、発信地を書くところに『合衆国』と記して () を強調した。」という意味である。**a** の「匿名性」や **b** の「資本主義」はすぐに候補から除外できるだろう。**c** の state には「国家；状態」などの意味があるが、このように不可算名詞として用いる場合は「地位；威厳」といった意味になる。いずれの意味にしても、「ニューヨークと記す代わりに『合衆国』と記すことによって」強調するものとしてはふさわしくない。したがって、正解は **d** の「統一体」となる。ワシントンは特定の state に置かれた首都の名を記すのではなく、「合衆国」と記して連合国家の代表であることを強調したのである。

- ⑤ 空所を含む文は「ラジオやテレビの（ ）により、大統領の年頭演説は
大統領と連邦議会との間で行われる対話であるだけでなく、同時に大統領がアメリカ国民に意思を伝える機会にもなった。」という意味である。選択肢の意味はそれぞれ、**a**「出現」、**b**「緊急事態」、**c**「～を発明する」、**d**「結果」である。空所の前後の形からまず**c**が、そして内容から**b**が除外できるだろう。また、「ラジオやテレビの発明〔登場〕の結果」ならともかく「ラジオやテレビの結果」というのは内容的におかしい。よって**d**も除外される。正解は**a**である。advent はやや難易度の高い語だが、ここは消去法で容易に解答を導けるだろう。

Ex. The *advent* of the computer has brought this sort of task within the bounds of possibility.

(コンピューターの登場でこの種の作業が可能になった。)

- ⑥ 空所を含む文は「ルーズベルトの後任のハリー・トルーマンもまた、1947 年にその State of the Union speech が史上初めてテレビで放送された時に（ ）を set した。」という意味である。**a** は「言葉；言い方」の意味だが、このままではどのような phrase かが不明であるし、「一般教書」以外の言い方に関する言及もないので不適当。**b** は「先例」の意味。set a precedent で「先例を作る；先例となる」の意味になる。トルーマンは初めてテレビで State of the Union speech を行ったのであるから、これが先例となったの意味になる**b**が正解。**c** set a television は「テレビを置いた〔セットした〕」の意味になるが、ここでは文脈にそぐわない。**d** は set a union では意味を成さないが、仮に「連合を作った」のような意味になると考えても、テレビで初めて State of the Union speech を行ったこととは内容的に結び付かない。なお、State of the Union は「一般教書」と訳されるが、文字通りには「連合の状態」の意味。本文に書かれた歴史的経緯を考えれば、もともとの意味も理解できるだろう。State of the Union speech [address] で「一般教書演説」の意となる。

- (4) U.S. Presidents have <“from time to time”> given Congress

S

挿入句

O₁

V

an assessment of the condition of the union.

O₂

- from time to time : 「時々」の意味だが、ここでは文脈から「折にふれて；節目節目に」の意味合いになることを見抜くこと。
- give Congress an assessment of ~ : 「議会に～の評価をする」の意味。assessment は「～を評価〔査定〕する」の意味の動詞 assess の名詞形。
- the condition of the union 「連合の状態」
- give Congress an assessment of the condition of the union とは、連合を維持しようと努めている状況で、その経過を連邦議会に対し報告するということを言っている。以上をふまえて下線部を訳せば、「合衆国大統領は『節目節目に』議会に対して連合の状態を評価してきた〔状態の評価を行ってきた〕」のようになる。

- (5) a 「ジョージ・ワシントン大統領は1790年当時、首都のワシントンに住んでいた。」
 ①.1 でワシントンが「馬車で官邸からフェデラル・ホールへ向かった」と述べられており、官邸は当然首都にあると考えられるので内容に一致するように思えるが、本文をよく読むと①.10 に the nation's capital, New York, とある。当時の首都はニューヨークだったので一致しない。ちなみに、アメリカの首都は New York (1789-1790), Philadelphia (1790-1800), Washington, D.C. (1800-) と変遷している。
- b 「ジョージ・ワシントンが主に焦点を置いていたのは経営側と労働組合の間の均衡の問題であった。」management and union は通常「経営側と労働組合」の意味になる。いずれにしても management については本文では触れられていないので、内容に一致しない。
- c 「ウッドロー・ウィルソンは一部から反対の声が上がる中でアメリカ連邦議会に対して年頭演説を行った。」第4段落参照。第2文に Although controversial at the time, Wilson delivered his first annual message ... to both houses of Congress and ... とある。Although controversial at the time は副詞節中の‘主語 + be 動詞’ (ここでは it was) が省略された形。通常、副詞節中の‘主語 + be 動詞’が省略されるのは主節と主語が同一の場合であるが、文脈上自明な‘it + be 動詞’や‘there + be 動詞’は省略されることがある。
Ex. Report problems, if (there are) any. (問題があれば報告しなさい。)
 ここで省略されている it は「年頭演説を行うこと」を指す。controversial は「議論的となる；議論を呼ぶ」の意味の形容詞。つまり、Wilson が年頭演説を行うことに反対の声もあったのである。したがって、内容に一致する。
- d 「フランクリン・ルーズベルトはテレビ演説の中で『一般教書』という表現を考案した。」空所①を含む文にあるように、トルーマンがテレビで初めて演説を行ったのが1947年であるから、それ以前の、ルーズベルトが大統領だった時にはテレビ演説は行われていないことになる。したがって、内容に一致しない。
- e 「大統領による一般教書演説は合衆国の世論を反映するものでなければならない。」最終段落の内容を参照。過去を顧みて、未来へ向けての大統領の希望を述べるとあるが、世論を反映したものとは書かれていない。また、一般教書がかくあるべきといったことは述べられていない。したがって、内容に一致しない。なお、reflect ~ (～を反映する) と reflect on ~ (～を熟考する) の意味の違いにも注意したい。

全訳

1月の寒い朝のこと、大統領は馬車で官邸からフェデラル・ホールへと向かった。下院と上院の連邦議会二院による合同会議に出席するためであった。1790年1月8日、ジョージ・ワシントンは連邦議会に対して自ら、(アメリカ史上)初めての年頭演説を行ったが、その時ワシントンは自分には演説をする憲法上の義務があり、後に続く大統領の先例を作っているのだということを自覚していた。

しかしながら、大統領が焦点を置いていたのは連合という概念そのものであった。ワシントン政権は国家の樹立と連邦の維持という難題に関心を向けていた。アメリカに民主主義を

実現するという試みはまだ始まったばかりだった。ワシントンは「国家の連合」がうまくいくことを証明する必要があることを感じていたため、ある重要な項目を教書の中に盛り込んだのだった。ワシントンは、教書に発信地を記す際に当時首都であったニューヨークとは記さず、発信地を「合衆国」と記して統一体を強調したのである。

ワシントンの最初の連邦議会での演説以来、合衆国大統領は「節目節目に」連邦議会に対して連合の状態についての評価を示してきた。大統領はその機会を利用してさまざまな構想や特定の細目についてふれ、自らの目標や施政方針を述べるのである。

ワシントンの口頭による演説の前例を復活させた最初の大統領はウッドロー・ウィルソンで、それは1913年のことであった。当時論議を呼んだものの、ウィルソンは自ら連邦議会の両院で年頭演説を行い、行政上の優先課題についてその概略を説明した。

ラジオやテレビの登場により、大統領の年頭演説は大統領と連邦議会との間で行われる対話であるだけでなく、同時に大統領がアメリカ国民に意思を伝える機会にもなった。カルヴィン・クーリッジの1923年の演説はラジオで放送された最初の年頭演説となった。フランクリン・ルーズベルトは1935年に「一般教書」という言葉を初めて用いた。これが今日大統領の年頭演説を表す言葉として広く使われるようになったのだ。ルーズベルトの後任のハリー・トルーマンもまた1947年に先例を作ることとなった。その演説は史上初めてテレビで放送された一般教書演説となったのである。

年頭演説の多くは大統領の施政方針や国家としての優先課題を、一般的もしくは具体的な表現で概説する。1862年にはリンカーンが奴隷解放を要求する有名な演説を行ったし、1941年にはフランクリン・ルーズベルトが、その一般教書演説の中でいまや有名になった4つの自由について語っている。

形式や内容、演説方法や放送媒体がどのようなものであれ、大統領の年頭演説というのは国家としての統一のための背景となる。一般教書演説は、大統領が連邦議会及びアメリカ国民、そして全世界へ、未来に向けての希望を表明すると同時に、過去を顧みる機会となっているのである。

注

ℓ. 2 ◇ body 「組織；法人」

◇ Congress 「連邦議会」

◇ the House of Representatives and the Senate 「下院と上院」

ℓ. 4 ◇ be aware of ～ 「～に気がついていて；～を知っている」

Ex. I don't think people *are* really *aware of* just how much it costs.

(人々がそれに対して正確にどのくらいの金額がかかるのか、本当に認識しているとは思わない。)

◇ constitutional 「憲法上の」

ℓ. 5 ◇ and of the precedent he was setting for future presidents = and (he was aware) of the precedent { (that) he was setting for future presidents }

↑ 関係代名詞

ℓ. 8 ◇ Aware of the need to … = (Being) aware of the need to … : ‘理由’を表す分詞構文。

ℓ. 15 ◇ agenda 「議事日程；協議事項；重要課題；行動計画」

- ここでは、後出のℓ. 18 legislative priorities やℓ. 27 legislative agenda and national priorities などほぼ同じ内容を表すと考えてよい。
- ℓ. 16 ◇ revive ～「～を復活させる」
- ℓ. 17 ◇ in person 「本人自ら；直々に；個人的に」
- ℓ. 18 ◇ outline ～「～の概略を述べる」
- ◇ legislative 「立法の」 e.g. both *legislative* houses （上下両院）
- ◇ priority 「優先事項」
- ℓ. 28 ◇ in ～ terms 「～の言い方で」
- term は多義語なので注意が必要。ここでは「用語；言葉」の意味。
Ex. in explicit terms （明快な表現で）
in technical terms （専門的な言い方で；専門用語で）
- ◇ specific 「明確な；具体的な」
- ◇ slave emancipation 「奴隷解放」
- ℓ. 29 ◇ four freedoms 「4つの自由」 言論・表現の自由，信仰の自由，恐怖からの自由〔解放〕，欠乏からの自由〔解放〕のこと。
- ℓ. 31 ◇ Whatever the form, content, delivery method or broadcast medium
- medium の後に is または may be が省略されていると考える。whatever や no matter what に導かれた譲歩の副詞節中ではこのように（助動詞＋）be 動詞が省略されることがある。
- ℓ. 32 ◇ backdrop 「背景」
- ℓ. 33 ◇ while presenting his hopes … = while (he is) presenting his hopes …

【4】

解答

「全訳」の下線部参照。

解説

（下線部）

○ They は The bull hands を指すが，bull はここでは「雄牛」ではなく「雄の象」のこと。

○ ℓ. 3 Some elephants, ℓ. 4 elephants, ℓ. 5 the bulls というつながりに注意。

○ bull は「(水牛・象・オオシカ・鯨・オットセイなどの) 雄」を示す。

Ex. an elephant bull (雄の象)

○ hands はここでは「手」ではなくて「飼育係」である。これは下線部に続く文，Some elephants like alcohol even more than their keepers do. の部分を読めばわかる。hand は多義語。

Ex. a new hand (未熟者)

He was a poor *hand* at running a business. (彼は事業経営が下手な人だ。)

をみてもわかるように hand には「働き手」の意味がある。

ここでは以上をふまえて，

They は The bull hands や their keepers などの表現から，some elephants' keepers である。

よって, them = some elephants と考える。

なお, keepers に「飼育係」の意味があるのは覚えておこう。

cf. the panda keeper (パンダの飼育係)

We keep chickens. (うちでは食用に鶏を飼っている。)

○ a few feet away 「数フィート分だけ離れている」 a few feet は副詞相当語句。

全訳

象の飼育係たちは1日24時間それぞれに任された象と共に生活し、狂気に近い献身ぶりで象の面倒をみた。象の飼育係たちは数フィート離れたところで眠り、食べ物や貴重なウィスキーの割り当ても象と分かち合った。中には飼育係よりも酒が好きな象もいた。いったん象に愛着を覚えると、サーカスをやめる者はめったにいなかった。サーカスはこうした多くの人々の素性を隠し、居心地のよい住み家と、どこか報われる象との親密な付き合いを経験させてくれ、彼らが逃れてきた少年院、前科、壊れた家庭、妻たち、責任を負うべき対象と、いった、いかなるものからであれ、逃れるための避難所を提供したのであった。

注

ℓ. 1 ◇ a day 「1日につき」

◇ charges 「任せられたもの」ここでは「担当している象」を指す。

◇ care for ～ 「～の世話をする」

◇ devotion 「献身；献身的愛情」

ℓ. 2 ◇ that bordered on mania 「狂気すれすれの」

○ that : 関係代名詞。

○ border on ～ 「(人・状態が) ～にほとんど近い」

cf. Whispering during an exam *borders on* cheating.

(試験中のひそひそ話はカンニングに近い。)

◇ mania 「熱狂」

○ 日本語で言う「～マニア」に当たるのは, a maniac; an enthusiast.

ℓ. 3 ◇ Once attached to elephants = Once (he is) attached to elephants と考える。

○ once … 「いったん…すると」

○ be attached to ～ 「～に愛情を持っている〔持つ〕」

※ この attached は純粋な形容詞と考え、attach の受身形とは考えない。

ℓ. 4 ◇ show 「サーカス」(次の文で circus と言い換えてある。)

cf. the greatest *show* on earth (地上最大のショー)

◇ offer + O₁ + O₂ 「O₁ に O₂ を提供する」

◇ anonymity 「匿名」

○ ここでは、「名前や素性や前歴などが問われることのない状況」。

ℓ. 5 ◇ somehow 「どうにかして；ともかくも；どうにかこうにか」

◇ refuge 「避難所」

ℓ. 6 ◇ whatever = anything that

◇ reform school 「少年院；感化院」

◇ prison record 「前科」

【5】

解答

- (1) The power of the thermonuclear bomb tested by the United States on Bikini Atoll in 1954 was far greater than (c predicted), creating a fireball measuring in millions of (degrees).
- (2) Fallout from the Bravo explosion (damaged [injured; harmed]) the health of people for hundreds of kilometers around and caused at (a least) one death.
- (3) Although Bikini now looks as beautiful as it used to, it has changed a lot. The original inhabitants are still living on other islands, where they were moved to when the (testing [tests]) began.
- (4) Bikini became an icon of 20th century (culture). A few days after the first atomic test on Bikini, a French designer named a two-piece (swimsuit) after the atoll.
- (5) (While [Although; Though]) marine life around the atoll is thriving, high levels of radioactive fallout elements in the soil make the islands (unsafe [dangerous; uninhabitable]).
- (6) Among the people eligible to live on Bikini are the original (inhabitants) and their relatives. It is not clear when they will be able to return.

Script

CD 2 13 ~ 15

In the early morning of March 1, 1954, just before sunrise, the U.S. military conducted a test bearing the code name Bravo. A thermonuclear bomb was exploded on Nam Island in Bikini Atoll. Nuclear experts had predicted this nuclear test to have a power of between three to six megatons of TNT. The unexpected result was a 15-megaton explosion. It
5 turned the island into a crater 24 stories deep and two kilometers wide. A fireball of intense heat, measuring in millions of degrees, grew far bigger than had been imagined possible.

The Bravo explosion was 1,200 times more powerful than the atomic bomb that destroyed Hiroshima at the end of World War II. Fallout from the explosion, radioactive dust that fell like snow for hundreds of kilometers around Bikini, sickened 82 people living
10 on atolls 195 kilometers away, including the native inhabitants of Bikini who had been moved there by the Americans. It also fell on 23 Japanese fishermen on the ship Fukuryu Maru, which was 137 kilometers to the east of Bikini. The fishermen also became ill from the fallout, and within seven months one of them died.

Bikini today looks very different than it did during those days, when it was the site of
15 23 atomic and thermonuclear tests. The Bikini atoll is once again a beautiful ring of some
two dozen small islands surrounding a blue lagoon. It is now inhabited by no more than
twenty to forty people at a time. Most of them are studying the radioactivity remaining
from the testing, running a recently formed scuba-diving and fishing resort, or doing
construction work. The Bikinians themselves are living on other islands and atolls, as they
20 have been since 1946, when the nuclear testing on Bikini started and made it unsafe to live
there. During the testing era over 42,000 American military personnel, scientists, and
technicians stayed on Bikini atoll or lived on ships nearby. The 23 tests conducted on the
atoll had a combined yield of 77 megatons. Some of the tests destroyed whole islands at
once.

25 Once just a remote, beautiful place, Bikini became a cultural icon of the 20th century —
though not many may remember how. Just four days after the first atomic test on Bikini
on July 1, 1946, a French fashion designer introduced a now familiar two-piece swimsuit,
which he named the bikini. Then, in the 1954 Japanese movie *Gojira*, nuclear tests woke up
a sleeping monster near the Pacific island of Ohto, a fictional place inspired by Bikini.

30 The concrete control bunker for the Bravo test still stands on the atoll, now covered
over with tropical plants. Unfortunately, the building is not the only reminder of the years
of nuclear testing. The soil on the atoll still has high levels of radioactive fallout elements.
About 2,400 people are eligible to live on Bikini, including some of the 167 Bikinians moved
off the atoll by the U.S. before testing began in 1946 and their descendants and relatives by
35 marriage. Although there is a plan to make Bikini safe to live on again, it is still not clear
when the people of Bikini can return. While the marine life surrounding the atoll seems to
be doing well, the islands themselves are still ghost lands.

[543 words]

1954年3月1日の早朝、夜が明ける直前に、アメリカ軍はブラボーというコードネームを持つ実験を実施した。水素爆弾がビキニ環礁にあるナム島で爆発した。核の専門家たちは、この核実験を3～6メガトンのトリニトロトルエンに相当する威力があるだろうと予想していた。予想外の結果だったのは、15メガトンの爆発だったことだ。この爆発によって、この島は2キロにわたる24階建ての深さのくぼみと化した。何百万度もあるすさまじい熱さの火の玉が、想像の範囲をはるかに超えて広がった。

ブラボーの爆発は、第二次世界大戦の終わりに広島を破壊した原爆の1,200倍の威力だった。爆発による死の灰、つまり、ビキニ環礁の周囲何百キロにわたって雪のように降る放射性物質の塵によって、195キロ離れた珊瑚礁の島々に住む82人の人々の具合が悪くなった。その中には、アメリカ人によって移住させられたビキニ環礁の先住民も含まれていた。死の灰は、福竜丸の23人の日本人乗組員にも降り注いだ。福竜丸はビキニ環礁の137キロ東に航行中だった。漁師たちもまた死の灰によって具合が悪くなり、7カ月経たないうちに1人が亡くなった。

今日のビキニ環礁は、当時とは非常に異なっている。当時ビキニ環礁は23回の原爆や水爆の実験地とされていた。ビキニ環礁は再び、青い礁湖をとり囲む24ほどの小さな島々が、美しい輪を形成している。そこには、一時に20～40人の人しか今は住んでいない。彼らのほとんどは、実験で残った放射能を研究している人や、最近できたスキューバ・ダイビングやフィッシング・リゾートを経営する人、あるいは、建設工事に携わる人である。ビキニ環礁の住民自身は、1946年以来他の島々や環礁に住んでいるのだが、その年に核実験がビキニ環礁で始まり、そこに住むのが安全でなくなったのだ。実験が行われた時期、42,000人以上のアメリカ軍人や科学者、技術者たちが、ビキニ環礁に滞在したり、近くの船で暮らしていた。そこで実施された23の実験は、合わせて77メガトンの威力であった。一度に島全体を破壊した実験もあった。

かつては遠く離れた所にある美しい地というだけだったビキニ環礁は、20世紀の文化的象徴となった。どのようにそうなったのかを覚えている人は多くはいないが、1946年7月1日のビキニ環礁での最初の原爆実験の4日後に、フランスのファッション・デザイナーが、今ではお馴染みのツーピースの水着を発表し、それをビキニと名付けた。そして、1954年には日本映画『ゴジラ』で、ビキニにヒントを得た架空の島、太平洋の大戸島の近くで眠れる怪獣が核実験によって目覚めたのである。

ブラボー実験用のコンクリートの管制シェルターは、今も環礁に残っていて、現在は熱帯植物に覆われている。残念なことに、核実験が行われていた時代を思い起こさせるのは、その建物だけではない。環礁の土壌からは、今でも高レベルの放射性物質が検知されている。約2,400人がビキニ環礁の住民とされているが、その中には1946年に実験が始まる前にアメリカによって退去させられた167人のビキニ環礁の住民の一部の人や、その子孫や結婚による親類たちも含まれている。ビキニ環礁を再び安全に住めるようにするための計画もあるが、いつになればビキニ環礁の人々が戻れるのかはまだ未定である。環礁の周りの海洋生物は何も問題がないように見えるが、島々そのものは依然として幽霊島なのである。

注

- ℓ. 1 ◇ conduct a test 「実験を行う」
- ℓ. 2 ◇ ~ bearing the code name ... 「…というコードネームが付いた～」
◇ thermonuclear bomb 「水素爆弾」
- ℓ. 3 ◇ atoll 「環礁」
◇ predict ~ to ... 「～が…することを予測する」
- ℓ. 4 ◇ the unexpected result was ~ 「予想外の結果だったのは～」
- ℓ. 5 ◇ turn ~ into ... 「～を…に変える」
◇ crater 「クレーター（火口状のくぼみ）」
◇ 24 stories deep 「24 階建のビルに相当する深さの」
◇ intense 「すさまじい」
- ℓ. 6 ◇ measuring in millions of degrees 「何百万度もある」
◇ than had been imagined possible 「可能であると思われていたより」
- ℓ. 8 ◇ fallout 「放射性降下物；死の灰」
◇ radioactive 「放射性的の」 < radioactivity
- ℓ. 9 ◇ sicken ~ 「～を病気にする」
- ℓ. 10 ◇ inhabitant 「住民」 < inhabit
- ℓ. 16 ◇ two dozen ~ 「24 個の～」
◇ lagoon 「礁湖（環礁に囲まれた海面）」
◇ no more than ~ 「～だけ」
- ℓ. 18 ◇ run a resort 「リゾートを経営する」
- ℓ. 19 ◇ as they have been since ~ = as they have been living since ~ 「～以降ずっと住んでいるが」
- ℓ. 20 ◇ make it unsafe to ... 「…するのが安全でなくする→安全に…できなくする」
- ℓ. 23 ◇ have a combined yield of ~ 「合わせて～威力を持つ」
- ℓ. 25 ◇ icon 「肖像；偶像；象徴」
- ℓ. 29 ◇ fictional 「架空の」
◇ inspired by ~ 「～によって（考えを）吹き込まれた→～にヒントを得た」
- ℓ. 31 ◇ ~ is not the only reminder of ... 「～が…を思い出させる唯一のものではない→…を思い起こさせるのは～だけではない」
- ℓ. 33 ◇ be eligible to ... 「…するのに適当な；相応しい」
- ℓ. 34 ◇ descendant 「子孫」
◇ relative (by marriage) 「（結婚による）親類」
- ℓ. 36 ◇ marine life 「海洋生物」
◇ seem to be doing well 「うまくやっているようだ→問題はないように思われる」

【6】

解答

- (1) a (2) c (3) e (4) a (5) c
(6) d (7) d (8) b (9) d (10) c

解説

- (1) ㉞. 1～2に, the number of people who were interested in becoming an assistant to a private investigator とある。また, ㉞. 5に Thank you for your reply to my advert for an assistant. と言っていることから, Molen 氏が募集しているのは, 「私立探偵のアシスタント」であることがわかる。したがって, a が正解。
- (2) ㉞. 2～3がヒント。picked out eight とあり, 内訳は女性が5名, 男性が3名の合計8名である。よって, 正解はc。
- (3) Molen 氏の手紙の最終文に, Just follow me but do not speak to me until I enter my office. とある。さらに, 最終的に1人の若い女性が, 彼の後をつけて事務所に辿り着いたのであるから, e を選ぶべき。
- (4) コーヒーショップを出る際に, 別の所から出たことについて, ㉞. 46で It was an obvious trick but it fooled him. と言っているので, a が正解。
- (5) ㉞. 9～12がヒント。手紙を出した8名に, 探偵のアシスタントとしての資質があるかどうかを確かめたかったのである。したがって, c が正解。
- (6) Molen 氏の目的は, アシスタントを雇うことであり, 最終的に1人の女性が彼を尾行して, 事務所に辿り着いている。したがって, d を選択するべき。
- (7) 変装の様子は㉞. 14～19に書かれている。あごにグレーの付けひげをつけて, 老人に見せかけ, 濃紺のダブルの上着を着ているのであるから d が正解。
- (8) ㉞. 6に at exactly “half-eight” とある。half-eight は8時半のことである。また, ㉞. 13で On Friday morning Van der Molen rose early. と言っているので, b が正解。
- (9) ㉞. 7の wearing a red carnation in my buttonhole がヒント。赤いカーネーションをボタンホールに挿したのである。よって, 正解はd。
- (10) ㉞. 31～32で, He stopped to look in another shop window. He noted with satisfaction that two of the reflections also stopped. と言っている。そのうちの1人が, ㉞. 35～36の a fair-haired girl wearing a yellow raincoat であり, もう1人が㉞. 37～38の a young man である。したがって, 正解はc。

全訳

私立探偵のアシスタントを志す人の数といたら, 驚くほどであった。ヴァン・デル・モレンは応募書類を選考して, 有望そうな8名を選び出した。うち5名が若手の女性, 3名が若手の男性であった。全員にありきたりの返事をタイプした。その内容はこうだ。

「アシスタントの募集広告にご応募いただき, ありがとうございます。来週金曜日の朝にお会いしましょう。時間は英国流に言うならば「8時半ちょうど」に。私が, ダム広場を, 王宮からナショナル・モニュメントに向かって, ぶらぶら歩きます。ボタンの穴には, 赤いカーネーションを挿しています。私について来てください。ただし, 事務所に着くまで話しかけないこと。」

ヴァン・デル・モレンはそれぞれの手紙に名前を書いたが、手紙のはじめに住所をタイプしなかった。住所を知っている人間が少なければ少ないほど、都合がよいからだ。アシスタント志望の8名全員が、自分の事務所に着けるかどうか疑問だった。少なくとも、探偵の仕事に興味を持っているのであれば、ジェームズ・ボンド流のアプローチをしようと思うだろう。

金曜日の朝、ヴァン・デル・モレンは早く目覚めた。ダム広場を散歩していた時、一番の親友でさえ彼だと気づかなかったであろう。グレーのあごひげは伸び放題で、老けて見えた。ぺしゃんこの革の帽子に、濃紺のダブルの上着。ぶかぶかのズボンに、厚ぼったいブーツを履けば、変装は完璧である。運河の小船から降りたばかりとしても、振り返って彼の姿を見る者は1人もいなかっただろう。彼は、チョッキに銀の鎖でぶら下げた懐中時計をちらりと見た。7時半なのに、ちらほらと人の動きが見られた。王宮に近づいていくと、数名の若者たちがぶらぶらしているのに気づいた。たまたま、密かにほくそえんでしまった。朝のこの時間帯、彼らの存在に気づくのは容易なことであった。店は開店していないし、朝のラッシュはまだ始まっていなかった。彼らは、この「年老いた船乗り」に一瞬視線を向けた。ヴァン・デル・モレンが数えたところ、王宮の外をぶらついていた人の数は6人。彼らは磁石さながら、王宮に吸い寄せられていた。しかし、6人はお互いの邪魔にならないようにしていた。ヴァン・デル・モレンは1人でにやりとした後、目覚めのコーヒーを飲むために脇道にそれ、ダムラックに入った。時間を間違えて、7時半に路上に出ているとは、彼らの就職事情は悪いに違いない。

8時半ちょうどになると、彼は王宮の裏側から姿を現した。今度は、ボタンホールに赤いカーネーションを挿していた。ゆっくりとダム広場を通ってナショナル・モニュメントの方に向かった。その前で一瞬立ち止まった。さっきよりも、周囲には人が増えていた。広場を横切って、クラスナポリスキー・ホテルまで行き、ダムシュトラートに入った。ある店の窓には、同じ方向に歩く数人の姿が映し出されていた。別の店の窓を見ようと、立ち止まった。すると、2人が立ち止まる姿も映し出されるのに気づいて、悦に入った。運河の橋のところで右折し、運河沿いを少し歩いたところで、小ぢんまりとしたコーヒーショップに入った。

彼はコーヒーを注文し、席についた。数分後、黄色いレインコートを着た、金髪の若い女性が、店に入ってきた。彼女もコーヒーを注文した。ヴァン・デル・モレンは、店の窓に映った明かりの反射を、ふと思ひ起こした。そして彼は窓の外をふと見やった。若い男性が、運河を挟んで向かい側の道路をゆっくりと歩いていた。

女性は、コーヒーショップ店内の反対側にあるテーブルについた。喫茶店の裏出口は、路地に通じている。ヴァン・デル・モレンは、時間をかけてコーヒーを飲んだ。この業界ではすでに人手不足が進んでいるため、喉から手が出るほどアシスタントが必要であった。この変装では、女性がコーヒーを飲み終えるまでに、裏出口から抜け出すことはできないであろう。私の姿を間近で見て、みすみす一杯のコーヒーを無駄にしてまで、この年老いた船乗りを追跡するだけの価値はない、と彼女は判断しているかもしれない、そう思った。

何分も経ってから、彼は裏出口から店を出たので、運河の向こう岸で待っていた若い男は、無駄足に終わった。わかりきった策略であったが、男はまんまと騙されたのだ。ヴァン・デル・モレンは、事務所に辿り着くと、悦に入って笑みを浮かべた。黄色いレインコートの女

性は、角を曲がって彼のあとをつけて来ていたからである。重要なことであるが、頭の切れは抜群である。おまけに魅力的で、これもおまけであった。彼は自分の仕事に大して興味がなかったの、それ以上の優れた点を見極めることはできなかった。

数分後、事務所のドアのベルが鳴った。ヴァン・デル・モレンは、タオルで顔を拭いた。ようやく、変装のマークを落としたところであった。机のボタンを押して、インターフォンに向かって話した。

「中へどうぞ。」

注

- ℓ. 2 ◇ private investigator = a detective who is not in the police, but who can be employed to find out information, find a missing person, follow somebody, etc.; private detective; private eye
- ◇ Van der Molen sorted through the replies and picked out eight that looked promising
- sort through = go through a number of things, in order to tidy them or find something that you are looking for
- reply = something that you say or write when you answer someone or answer a letter or advertisement
- ここでの reply は、Van der Molen が出した、私立探偵のアシスタント募集の広告に対する応募書類のことをいう。
- pick out = choose something or somebody carefully from a group of people or things
- promising = showing signs of being good or successful 「有望な；見込みのある」
- ℓ. 4 ◇ It read : ~
- read = have something written on it; be written in a particular way
- cf. The sign *reads* 'No admittance.'
- (掲示に『入場お断り』と書いてある。)
- The thermometer *reads* 35 degrees Celsius.
- (寒暖計によると、摂氏 35 度だ。)
- ℓ. 5 ◇ advert = advertisement
- ℓ. 6 ◇ at exactly "half-eight" = at exactly half past eight 「8時半ちょうどに」
- ◇ as the English say
- as = in the same way as
- ◇ I will stroll across Dam Square from the Royal Palace to the National Monument wearing a red carnation in my buttonhole
- stroll = walk in a leisurely way
- wearing a red carnation in my buttonhole : 付帯状況を表す分詞構文。
- ℓ. 9 ◇ The fewer people who knew where he lived the better
- The + 比較級~, the + 比較級… 「~すればそれだけ…」
- この the は副詞。

- ℓ. 10 ◇ He doubted if all eight would-be assistants would get to his office
- doubt = believe that something is probably not true or possible
 - if = whether
 - would-be = desiring or aspiring to be; used to describe somebody who is hoping to become the type of person mentioned
 - cf. She is a *would-be* actress. (彼女は女優志望だ。)
- ℓ. 13 ◇ rise = get up
- ◇ even his closest friend would not have recognized him
 - 仮定法過去完了。even his closest friend が条件。
 - recognize = know who somebody is or what something is when you see or hear them, because you have seen or heard them or it before
 - cf. I *recognized* her as soon as she came in. (入ってきてすぐに彼女だとわかった。)
- ℓ. 14 ◇ The straggly gray beard made him look ancient
- straggly = growing or hanging in a way that does not look tidy or attractive
 - ※ 形容詞であることに注意。
 - beard = the hair which grows on a man's cheeks and chin
 - ancient = very old
- ℓ. 15 ◇ reefer jacket = reefing jacket 「リーファ；厚手のダブルの上着」
- ◇ Baggy trousers and heavy boots completed the picture
 - baggy = having loosely on the body
 - trousers = a piece of clothing that covers both legs and reaches from your waist to your ankles
 - picture = a description of a person or an indication of what a person is like
- ℓ. 16 ◇ Nobody would have looked twice if he had just stepped off one of the canal barges
- 仮定法過去完了
 - canal = artificial inland waterway; a long, narrow stretch of water that has been made for boats to travel along or to bring water to a particular area
 - barge = a long, narrow boat with a flat bottom 「平底荷船；はしけ（波止場と本船の間を往来する小船）」
- ℓ. 17 ◇ a pocket watch that dangled from a silver chain at his waistcoat
- pocket watch 「懐中時計」
 - that : 関係代名詞。先行詞は a pocket watch。
 - dangle = hang or swing loosely from somewhere
 - waistcoat = a sleeveless piece of clothing with buttons which people usually wear over a shirt 「ベスト；チョッキ」
- ℓ. 19 ◇ he noticed a number of young people hanging about
- a number of = ① some, several ② many
 - hanging about は主語の状態を表している。

- hang about = stay in the same place doing nothing, usually because you are waiting for someone or something
- ◇ He couldn't resist a sly chuckle
- resist = try to stop something happening
- sly = secretive: そっと人目につかないようにことを行ったり, あるいはうまく言い逃れたりしてずるく立ち回ること。
cf. a sly look (わけ知り顔; ずるそうな顔つき)
- chuckle = quiet or suppressed laugh
- ℓ. 21 ◇ seaman = a person whose work is at sea
- ℓ. 22 ◇ wander = walk slowly around or to a place, often without any particular purpose
- ℓ. 23 ◇ It attracted them like a magnet
 - It = The Royal Palace
 - them = half a dozen people
 - attract = make somebody or something to come somewhere or take part in something
 - ◇ keep out of somebody's way = stay out of somebody's way; avoid somebody
- ℓ. 24 ◇ turn off = leave a road in order to travel on another
- ℓ. 27 ◇ emerge from = appear or come from somewhere
- ℓ. 29 ◇ He stopped briefly in front of it
 - briefly = for a short time
 - it = the National Monument
 - ◇ There were more people about now
 - about = around
- ℓ. 30 ◇ cross over to = go across; pass or stretch from one side to another
 - ◇ he caught the reflection of several people moving in the same direction
 - catch + A + ...ing 「A が...しているのを見つける」
※ 「A が...しているところを捕まえる」の意味になることもある。
cf. I caught the boy *stealing* oranges from the orchard.
(果樹園から少年がオレンジを盗もうとしているところを捕まえた。)
 - reflection = an image reflected in a mirror or similar surface
- ℓ. 32 ◇ with satisfaction = satisfactorily
- ℓ. 35 ◇ a fair-haired girl wearing a yellow raincoat came in
 - fair-haired = with light or blonde hair
 - wearing a yellow raincoat は, a fair-haired girl を修飾する形容詞句
- ℓ. 38 ◇ pace = walk with slow regular steps
- ℓ. 39 ◇ A rear entrance to the cafe opened out on to an alley
 - rear = (only before noun) at or near the back of something
 - open out on to = open wider so that you can move through the place directly into the other
 - alley = a narrow passage between buildings

- ℓ. 40 ◇ The field was already thinning out and he badly needed an assistant
 ○ The field = The field of a private investigator
 ○ thin out = become thinner or fewer in number
 ○ badly = very much
- ℓ. 41 ◇ In this disguise he could not afford to step out of the back door
 ○ disguise = clothes or items such as false hair, glasses, etc., that you wear to change your appearance so that nobody can recognize you
 ○ can't or couldn't afford to do = not be able to do something or let something happen because it would have a bad result for you
 ○ step out of = go out of
- ℓ. 42 ◇ Having seen him at close quarters, she may not think it was worth missing a cup of coffee to chase after an old bargee
 ○ at close quarters = very near
 ○ miss = fail to drink
 ○ chase after = run, drive, etc. after somebody or something in order to catch them
- ℓ. 45 ◇ in vain = without success
- ℓ. 46 ◇ fool = trick somebody
- ℓ. 48 ◇ She was smart upstairs, that was the main thing
 ○ smart = clever; intelligent
 ○ upstairs = in the head
 ○ that は前述の内容を指す代名詞。ここでは、She was smart upstairs のこと。
 ◇ She was also attractive, and that was an added bonus
 ○ この that も前述の内容を指している。直前の She was also attractive のこと。
- ℓ. 49 ◇ he failed to appreciate the finer points
 ○ fail to do = can not do something
 ○ appreciate = [not used in the progressive forms] recognize the good qualities of somebody or something
cf. I'd *appreciate* it if you paid in cash. (現金でお支払いいただければ幸いです。)
- ℓ. 52 ◇ He had just managed to take off his disguise
 ○ manage to do = succeed in doing something, especially something difficult
cf. We *managed to* get to the airport in time.
 (やっとのことで、我々は空港に時間通りに着いた。)
- ℓ. 53 ◇ intercom = a system of communication by telephone or radio inside an office, place, etc.

添削課題

解答例

The Berlin Wall is a cultural icon of the 20th century. Although it was a very real barrier to the people of Berlin, some of whom were killed trying to escape over it, it also represented the much larger separation between the communist states of Eastern Europe and the capitalist states of the West and similar divisions in other parts of the world.

[63 words]

解説

- Although most students wrote pretty good compositions, many did not seem to fully understand what a cultural icon is. The word icon can refer to various things, ranging from religious icons considered to be sacred to the purely functional icons that we find on a computer screen. What they have in common is that they are images that represent something beyond themselves. In the former case, a painting on a piece of wood represents Christ; in the latter, a little picture of a trashcan on a computer screen represents the function “delete file.”
- A cultural icon is a little harder to define since the term may refer to people, places, or things. However, a cultural icon is also an image representing something beyond itself. Becoming an icon does not depend on the actual contribution that is made. Many historians downplay the actual contributions made by President John F. Kennedy, and in fact more progressive legislation was accomplished by his successor, Lyndon B. Johnson. But it is JFK that stands as the symbol of the progressive mood of the 60s, just as the Beatles seem collectively to be an icon for the so-called “youth revolution.” (Johnson could be said to have enjoyed temporary icon status in a negative sense during his term as president, as the representative of “the establishment,” but that role was quickly transferred to his successor, Richard M. Nixon.)
- The most common error among student compositions was to choose something that was too large in scope. For example, several students described World War II as an icon of the century. I don’t think that a great global conflict costing millions of lives can be thought of as “representing” a larger phenomenon of the 20th century. It was in itself one of the century’s most significant events. However, the Atomic Bomb Memorial Dome in Hiroshima certainly qualifies as a symbol of the destructiveness of that war and the lasting dangers of nuclear weapons. Designs featuring the silhouette of the dome instantly bring nuclear war to mind.
- Likewise, “computers” seems too broad to be called an icon. Though a particular computer, I.B.M.’s Deep Blue, came to represent artificial intelligence when it defeated world chess champion Garry Kasparov in 1997, it is not a good example of an icon because it is the name Deep Blue that is the symbol, rather than the visual image of the computer, which is hardly memorable.